

## 地域公共交通計画の検討内容について

- 令和2年度に策定した「豊見城市交通基本計画」、令和3年度に策定した「豊見城市総合交通戦略」において、豊見城市における交通に関する課題や基本方針、将来像、施策、指標を明記している。
- これらの計画に記載された施策のうち、公共交通に関連する施策を推進するために、交通事業者や関係機関の合意を得て、具体的な進め方を検討する。

表 計画の構成と検討内容

構成	記載内容	検討内容
1. 計画概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 背景と目的</li> <li>・ 計画地域、目標年次</li> <li>・ 計画位置づけ</li> <li>・ 計画の構成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本計画の目的、範囲、目標年次等</li> </ul>
2. 公共交通を取り巻く現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 豊見城市の公共交通を取り巻く現状</li> <li>・ 公共交通に関する課題</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 公共交通関連で深掘りして整理すべき事項</li> </ul>
3. 豊見城市が目指す将来像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 理念、基本方針</li> <li>・ 短期的、中長期的な将来像</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新たな将来像や方針等の追加の必要性</li> </ul>
4. 方針と施策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 策定方針</li> <li>・ 実施施策</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 短期の実実施策 (近隣市町村の取組施策や国内の先進事例も参考に)</li> <li>・ 施策の短期での具体的な進め方</li> </ul>
5. 計画の実現に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 目標指標・目標値の設定</li> <li>・ 推進体制</li> <li>・ 評価・改善の仕組み</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指標・目標値</li> <li>・ 評価年次、改善の仕組み</li> </ul>

# 1. 「計画概要」における検討事項

## 検討事項

- 総合交通戦略の公共交通部分を具体的な進め方を整理する計画とし、本計画の目的、対象範囲、目標年次、計画の位置づけ、構成等について検討する。

## 1.1 背景と目的

- 本市では総合計画や都市計画マスタープランにおいて道路交通体系の方針を位置づけ、各種施策を展開しているものの、自動車に依存した都市構造となっていることから、慢性的な交通渋滞が発生し、公共交通の充実や環境負荷の低減などの課題が生じている。
- このような中、本市の将来の交通のあり方に関する基本的な考え方を示し、市民生活の向上や地域経済を支える道路交通体系の構築などの取り組みを総合的かつ戦略的に進めていくために、令和2年度に「豊見城市交通基本計画」、令和3年度に「豊見城市総合交通戦略」を策定した。
- 総合交通戦略の公共交通関連施策を推進するために、交通事業者や関係機関の意見を踏まえて具体的な進め方を整理し、地域公共交通計画を策定する。

## 1.2 計画の位置づけ

- 「豊見城市地域公共交通計画」の位置づけは、総合交通戦略における公共交通関連施策を推進する計画となる。

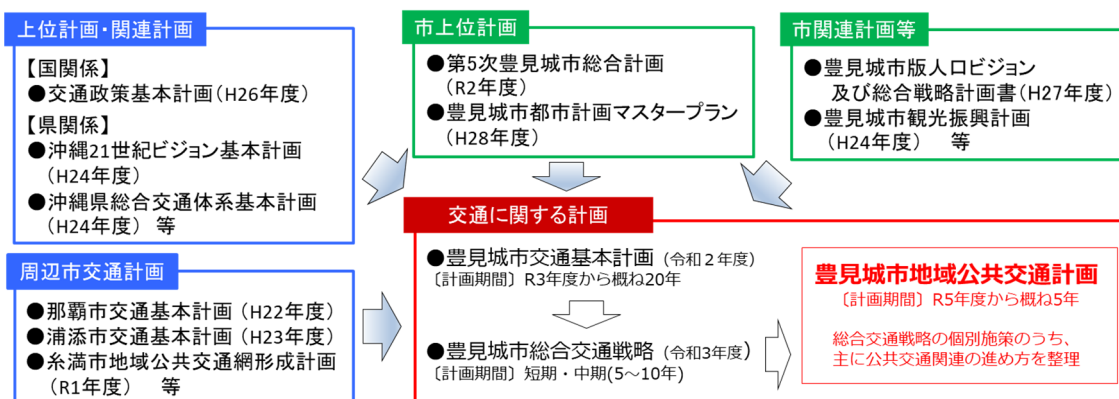


図 計画の位置づけ

## 1.3 計画の区域

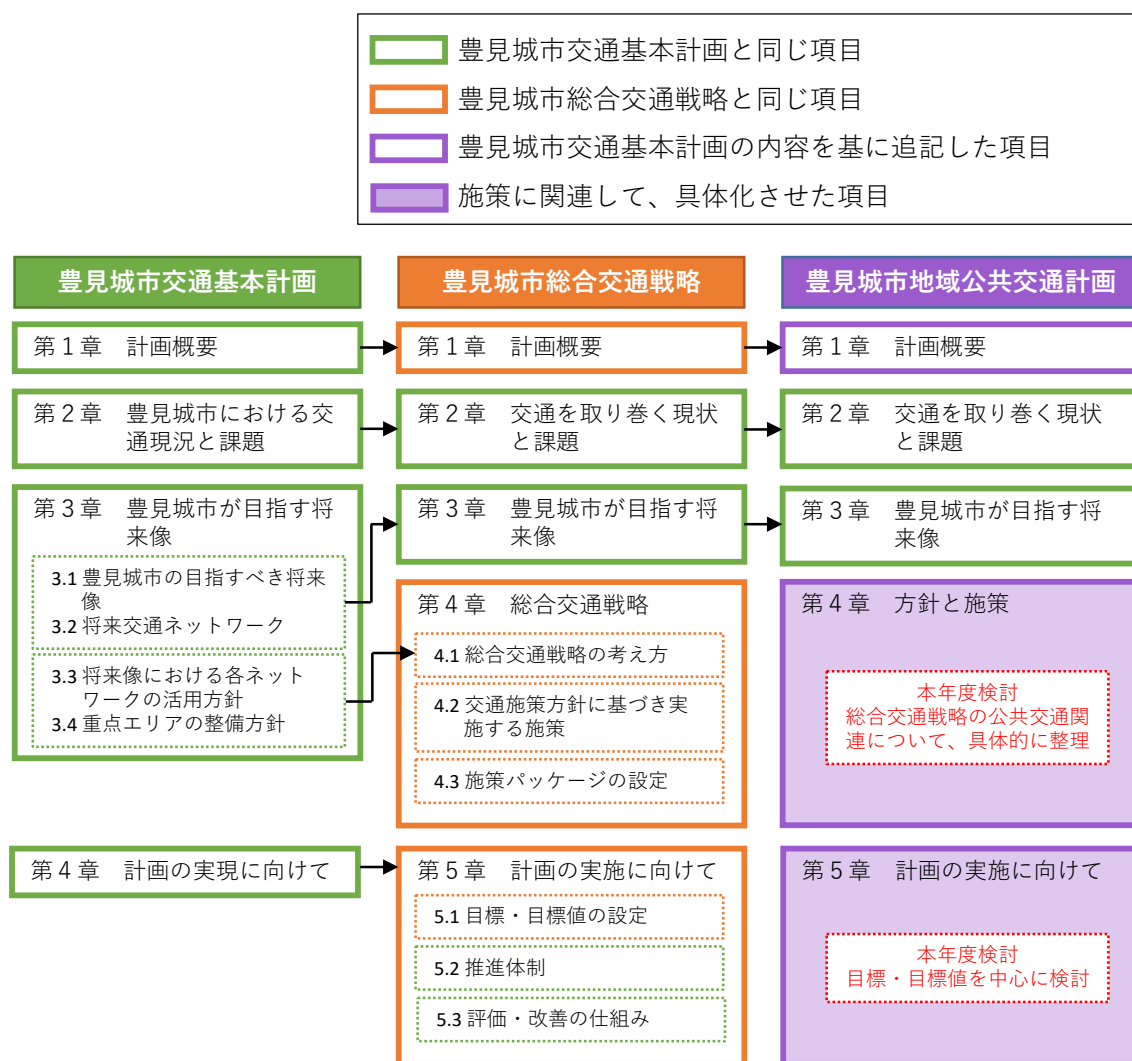
- 「豊見城市地域公共交通計画」の計画の区域は、豊見城市全域とする。

## 1.4 目標年次

- 「豊見城市地域公共交通計画」の目標年次は、2023年度から概ね5年後となる2027年度を目標とする。

## 1.5 計画の構成

- 総合交通戦略における公共交通に関連する施策を推進する計画とし、公共交通関連の公共交通に関する施策や施策パッケージの具体化を図る。



## 2. 「公共交通に関する現状と課題」の検討事項

### 検討事項

- 「豊見城市交通基本計画」、「豊見城市総合交通戦略」の課題を基本とし、国の手引き等も参考にしながら、公共交通関連の現状や課題について、深掘りして整理する。

表 交通基本計画、総合交通戦略の問題・課題

	問題・課題	主な課題
日常生活の移動における課題 【市民アンケート結果】 【高齢者ヒアリング結果】 【高校ヒアリング結果】	①自動車交通：那覇市～豊見城市間等で発生する交通渋滞の緩和が必要	渋滞緩和
	②生活道路：豊見城市内では通過交通により生活道路の安全性が低下	安全・安心
	③公共交通：那覇市～豊見城市間等の公共交通の利便性向上が必要	公共交通利便性
	④高齢者など交通弱者：交通手段の確保が必要	公共交通利便性 安全・安心
	⑤通院：医療施設へのアクセス利便性向上が必要	公共交通利便性
	⑥自転車：自転車の利用環境の改善、安全性の向上が必要	渋滞緩和 安全・安心
観光客の移動における課題 【観光客アンケート結果】 【レンタカー会社ヒアリング結果】	⑦交通渋滞緩和や駐車場不足の解消に向けた取組が必要	渋滞緩和 公共交通利便性
	⑧観光客に対する公共交通の利便性向上が必要	公共交通利便性
	⑨南部地域の観光施設を周遊可能な取組が必要	公共交通利便性
	⑩道の駅豊崎の観光拠点の機能強化が必要	公共交通利便性
	⑪観光地としての印象を高める道路景観が必要	安全・安心
立地企業の業務上の移動における課題 【企業アンケート結果】	⑫豊崎・与根地区から那覇新港・那覇空港へのアクセス強化が必要	渋滞緩和
防災における課題 【市民アンケート結果】	⑬災害時の避難経路の確保や避難経路等の広報等が必要	安全・安心

### 3. 「豊見城市が目指す将来像」の検討事項

#### 検討事項

- 「豊見城市交通基本計画」、「豊見城市総合交通戦略」の目指す将来像を基本とする。
- 将来像、基本方針、将来公共交通ネットワーク図が掲げられており、本計画において、公共交通関連の具体の将来像を示す必要性について検討する。

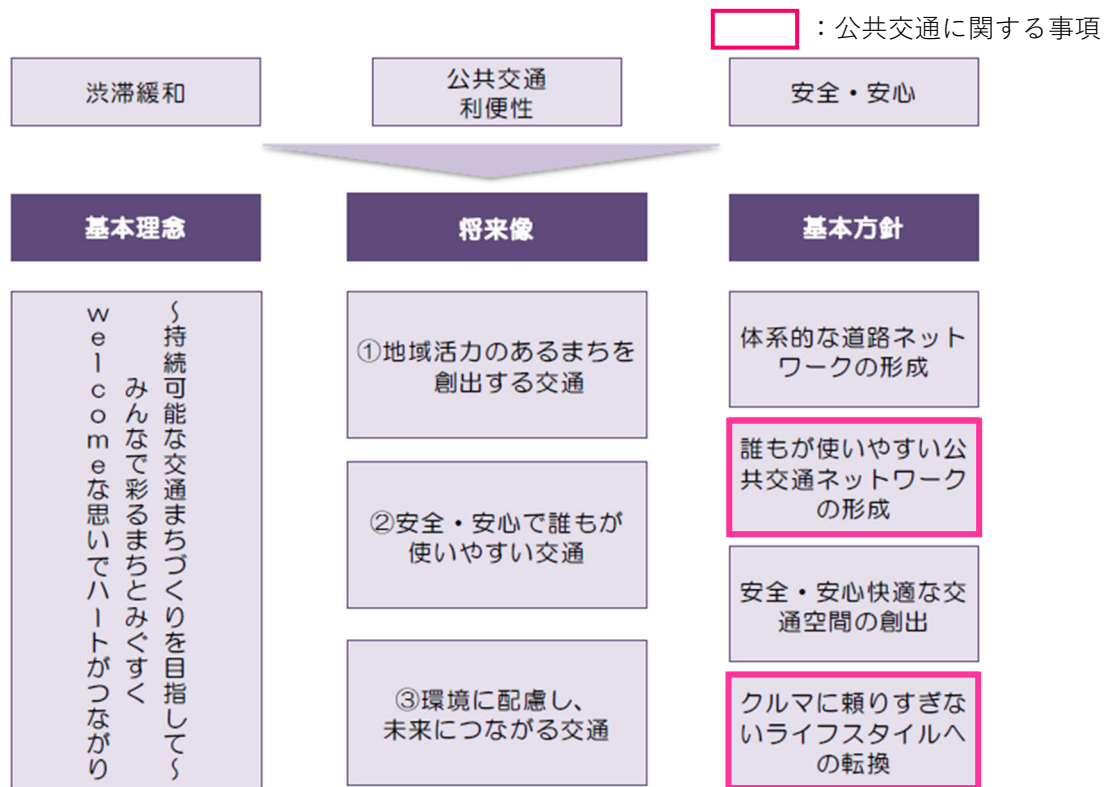


図 基本理念、将来像、基本方針

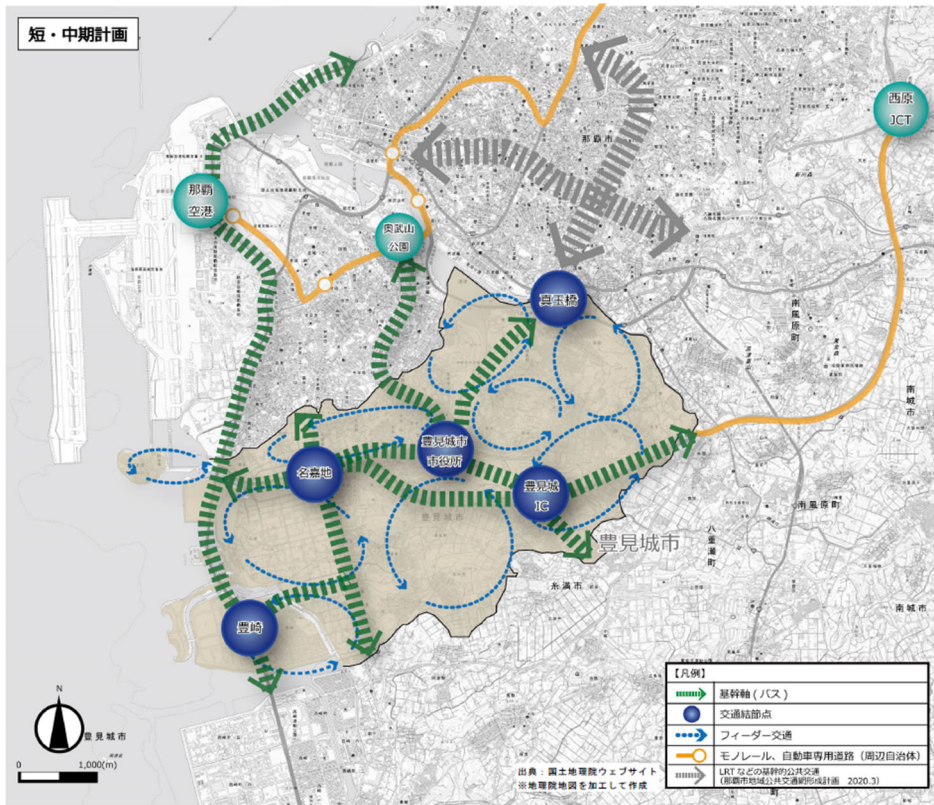


図 将来公共交通ネットワーク図（短期）

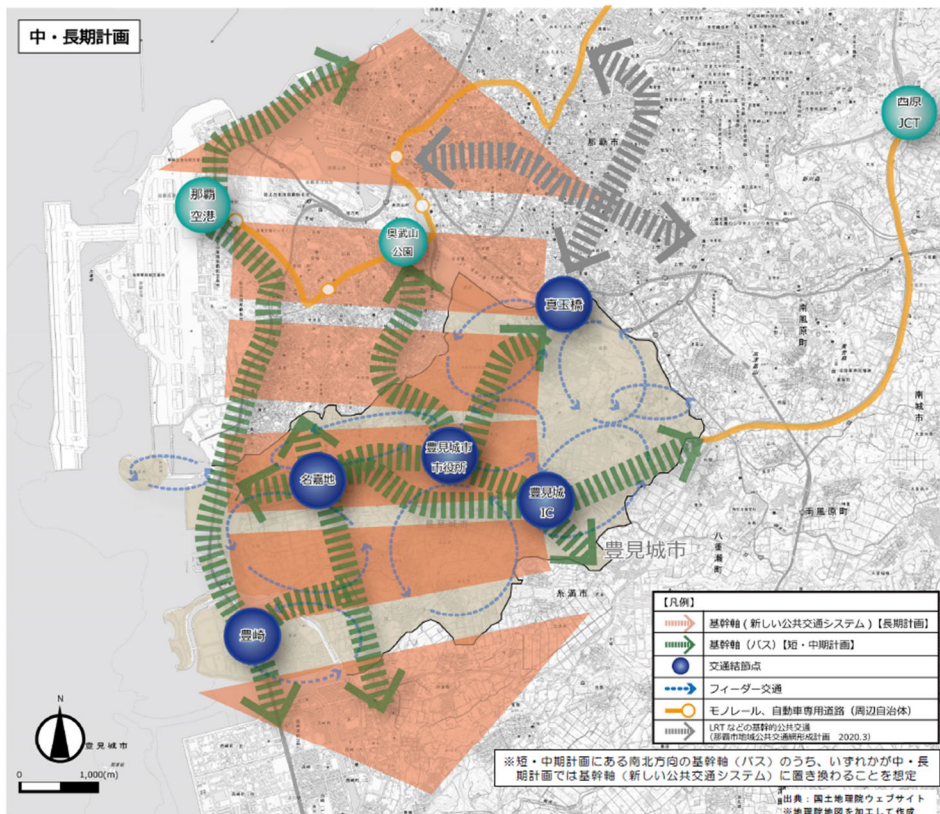


図 将来公共交通ネットワーク図（中・長期）

## 4. 「方針と施策」の検討事項

### 検討事項

- 交通基本計画、総合交通戦略の基本方針、個別施策のうち、公共交通に関する施策を対象とする。
- 個別施策に対し、先進事例や近隣自治体の事例も参考にしながら、短期（5年以内）の具体的な実施事項（施策内容、スケジュール、実施主体等）を検討する。

表 総合交通戦略の個別施策

基本方針	施策	個別施策	
体系的な道路ネットワークの形成	自動車専用道路、主要幹線道路、幹線道路、補助幹線道路、生活道路の整備	【No.1】 渋滞緩和や移動を円滑にするための道路整備の推進	
	交差点改良等の推進	【No.2】 市内主要渋滞箇所の交差点改良の推進	
	道路の維持・管理	【No.3】 道路環境の維持のための定期的な点検・維持管理の推進	
誰もが使いやすい公共交通ネットワークの形成	新しい公共交通システムの導入	【No.4】 LRT、モノレールなど基幹公共交通の導入検討の推進	
	路線バスの利用環境の拡充	【No.5】 公共交通ネットワークの形成に向けた取り組みの推進	【No.5-1】 地域公共交通圏画の策定 【No.5-2】 公共交通ネットワークの拡充の検討
		【No.6】 公共交通の利用促進に向けた取り組みの推進	
	多様なフィーダー交通網の構築	【No.7】 ラストワンマイルにおける交通手段の導入検討の推進	
	交通結節点の整備	【No.8】 交通結節点の整備の推進	
	MaaSをはじめとする新たなモビリティサービスの活用	【No.9】 MaaSをはじめとする新たなモビリティサービスの活用の推進	
安全・安心・快適な交通空間の創出	安全・安心・快適な歩行空間の創出	【No.10】 安全・安心な歩行空間の整備推進	【No.10-1】 通学路安全点検の実施 【No.10-2】 自治会との意見交換会の実施 【No.10-3】 安全・安心な環境整備の推進
		【No.11】 魅力的な空間・サービスの拡充推進	【No.11-1】 道路空間の活用推進 【No.11-2】 移動販売店などのサービスの拡充
	自転車利用の促進	【No.12】 自転車ネットワーク計画の策定	
		【No.13】 自転車利用に関する取り組み・整備の推進	
	交通事故を抑止するための安全教育の充実	【No.14】 交通事故を抑止するための安全教育の充実	
	災害に強い交通体系の整備の推進	【No.15】 災害に強い交通体系の整備の推進	
	道路景観の整備保全促進	【No.16】 道路景観の整備・保全の推進	
クルマに頼り過ぎないライフスタイルへの転換	モビリティマネジメント(MM)、交通需要マネジメント(TDM)の推進	【No.17】 モビリティマネジメント(MM)、交通需要マネジメント(TDM)の推進	

## 5. 「計画の実現に向けて」の検討事項

### 検討事項

- 総合交通戦略の目標指標及び目標値を基本に、国の手引きに示されている指標を参考に、公共交通に関する評価指標やモニタリングのタイミング等を検討する。
- 評価指標の検討時には、実施する施策とデータ取得の難易度に配慮する。

表 総合交通戦略における目標指標及び目標値

☐ : 公共交通に関する事項

目標指標	現状値	短・中期 目標値	把握方法
①那覇空港までの移動時間短縮 (豊見城市役所-那覇空港)	18~22分 (H27年度)	9~10分 (R12年度)	最新の全国道路・ 街路交通情勢調査 (平均旅行速度より 算出) <sup>※1</sup>
②主要渋滞箇所数 <sup>※2</sup>	20箇所 <sup>※3</sup> (R2年度)	低減 <sup>※4</sup> (R7年度)	沖縄地方渋滞対 策推進協議会及 び市の独自調査 より把握
③道路網等の整備の満足度 <sup>※2</sup>	2.69 (R1年度)	3.00 <sup>※5</sup> (R7年度)	市民意識調査 (5段階評価の 平均ポイント) より把握
④市内一周線バスの利用者数 <sup>※2</sup>	80,311人 (R1年度)	82,800人 (R7年度)	交通事業者より 把握
⑤路線バスの利用頻度 <sup>※2※6</sup>	5.2% (R1年度)	8.2% (R7年度)	市民意識調査よ り把握
⑥市内高校に通学する高校生の自 家用車の送迎率 <sup>※2※7</sup>	28.8% (R3年度)	低減 (R7年度)	各高校からの情報 提供及びヒアリン グにより把握
⑦日常生活において「徒歩」「自転 車」における移動の満足度 <sup>※2※8</sup>	56.7% (R1年度)	増加 (R7年度)	市民アンケート調 査より把握 <sup>※9</sup>
⑧高齢者の免許返納の意向 <sup>※2</sup> 【新規追 加】	71.2% (R1年度)	増加 (R7年度)	市民アンケート調 査より把握 <sup>※9</sup>
⑨通勤通学時の交通手段のうち自動車 の利用率 <sup>※2※10</sup> 【新規追加】	78.6% (R1年度)	低減 (R7年度)	市民アンケート調 査より把握 <sup>※9</sup>

「④市内一周線バスの利用者数」「⑤路線バスの利用頻度」は新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた目標値である。

- ※1 : 那覇空港自動車道小禄道路の整備後(短・中期)について、該当路線は設計速度80km/hで算出。  
 ※2 : 令和7年度に目標値のモニタリングを実施し、令和12年度の目標値を再設定する。  
 ※3 : R1年度時点の主要渋滞箇所20箇所を対象としており、その後追加された箇所は含まない。  
 ※4 : 交通基本計画では、短中期(10年)の目標を4箇所と設定しているが、本計画では道路管理者の意見を踏まえて、短期(5年)での目標を低減とした。  
 ※5 : 5段階評価の「3.普通」を目指す。  
 ※6 : 「ほぼ毎日」「週に数回」の合計値。  
 ※7 : 交通基本計画では、モニタリング状況の関係で2校(豊見城高校・豊見城南高校)の数値であったが、総合交通戦略においては市内3校(豊見城高校・豊見城南高校・南部農林高校)の数値とした。  
 ※8 : 「満足」「やや満足」の合計値。  
 ※9 : 令和1年度に実施したものと同様の調査を行う。  
 ※10 : 「自動車(自分で運転)」「自動車(家族などの送迎)」の合計値。



- 地域公共交通計画における指標候補は以下のとおりである。
- 国の手引きにおいて標準に区分される使用に加え、地域公共交通計画における実施施策に効果等を把握するデータについて、データ取得の難易度に留意し、指標を設定する。

表 地域公共交通計画の指標候補

目標	指標候補	区分	手法	備考	
誰もが使いやすい公共交通ネットワークの形成	路線バス	① 住民等の公共交通の利用者数（総数、1便当たり、走行台キロ当たり 等）	標準	実績	手引 No.1
		② 公的資金が投入されている公共交通事業の収支（収支率もしくは収支差）	標準	実績	手引 No.10
		③ 公共交通への公的資金投入額（総額、利用者1人当たり、住民1人当たり）	標準	実績	手引 No.11
		④ 市内一周線バスの利用者数	標準	実績	手引No.6 (P8目標値④と同様)
		⑤ 住民等の公共交通の利用頻度	推奨	アンケート	手引No.2 (P8目標値⑤と同様)
		⑥ 市内高校に通学する高校生の自家用車の送迎率	—	各高校からのヒアリング	P8目標値⑥と同様
		⑦ 公共交通カバー率（人口もしくは面積）	推奨	統計資料等から整理	手引No.27
		⑧ 地域内主要箇所からの通学・通勤・買い物等の主な目的地への移動手段の有無・便数	選択	実績	手引No.23
		⑨ 主な学校、病院、商店街付近のバス停等の有無	選択	実績	手引No.24
		⑩ クロスセクター効果（分野別代替費用と財政支出の差額）	推奨	庁内ヒア等	手引No.14
	バス待ち環境	⑪ バス待ちスペースの箇所数	—	実績	—
	サービス改善・情報化	⑫	情報のオープン化（オープンデータ化）	推奨	実績
キャッシュレス決済の導入件数・導入率			推奨	実績	手引 No.17
駅・停留所施設、運行情報、広報媒体等の多言語化			推奨	実績	手引 No.18

表 国の手引きの評価指標の例（1）

目標例		数値指標例	区分	交通施策との関連性の高さ	住民目線でのわかりやすさ	計測に伴う調査・分析の負担
公共交通利用者の維持・確保	No.1	住民等の公共交通の利用者数(総数、1 便当たり、走行台キロ当たり等)	標準	高い	わかりやすい	負担小さい
	No.2	住民等の公共交通の利用頻度	推奨	高い	わかりやすい	
	No.3	住民等の公共交通利用率	推奨	高い	わかりやすい	
	No.4	平均乗車密度	推奨	高い		
	No.5	断面輸送量	推奨	高い		
	No.6	個別路線・系統の利用者数	推奨	高い	わかりやすい	
	No.7	利用者・住民等の地域の地域旅客運送サービス全般に対する満足度	推奨	高い	わかりやすい	
	No.8	公共交通に関する高評価(感謝等)、低評価(苦情等)の件数	選択		わかりやすい	
	No.9	利用者・住民等の地域の地域旅客運送サービスに対する認知度	推奨	高い	わかりやすい	
事業効率の改善	No.10	公的資金が投入されている公共交通事業の収支(収支率もしくは収支差)	標準	高い	わかりやすい	負担小さい
	No.11	公共交通への公的資金投入額(総額、利用者1 人当たり、住民1 人当たり)	標準	高い	わかりやすい	負担小さい
	No.12	運賃収入	推奨	高い	わかりやすい	
	No.13	運行経費	推奨	高い	わかりやすい	
	No.14	クロスセクター効果(分野別代替費用と財政支出の差額)	推奨	高い		
	No.15	公的資金投入に対する理解度	選択		わかりやすい	
既存サービスの改善(情報化)	No.16	情報のオープン化(オープンデータ化)	推奨	高い	わかりやすい	負担小さい
	No.17	キャッシュレス決済の導入件数・導入率	推奨	高い	わかりやすい	負担小さい
	No.18	駅・停留所施設、運行情報、広報媒体等の多言語化	推奨	高い	わかりやすい	負担小さい
いにまち創出の	No.19	商店街の来街者数	選択		わかりやすい	
	No.20	商店街最寄りのバス停の乗降者数	選択		わかりやすい	
観光振興	No.21	観光客数(入込観光客数、宿泊者数等)	選択		わかりやすい	
	No.22	観光地最寄りのバス停の乗降者数	選択		わかりやすい	

表 国の手引きの評価指標の例（2）

目標例		数値指標例	区分	交通施策との関連性の高さ	住民目線でのわかりやすさ	計測に伴う調査・分析の負担
おでかけ機会の確保	No.23	各個人や地域内主要箇所からの通学・通院・買い物等の主な目的地への移動手段の有無・便数	選択		わかりやすい	負担小さい
	No.24	主な学校、病院、商店街近辺のバス停等の有無	選択		わかりやすい	負担小さい
	No.25	高齢者の外出回数	選択		わかりやすい	
	No.26	自宅から通学できる高校生の割合	選択		わかりやすい	
	No.27	公共交通カバー率（人口もしくは面積）	推奨	高い	わかりやすい	
	No.28	集落カバー率（人口もしくは面積）	推奨	高い	わかりやすい	
	No.29	公共交通空白・不便地域率（人口もしくは面積）	推奨	高い	わかりやすい	
	No.30	地域間の移動者数【地域間幹線系統確保維持事業の活用の際は設定推奨】	推奨	高い	わかりやすい	
	No.31	輸送容量	推奨	高い		負担小さい
	No.32	運行回数	推奨	高い		負担小さい
No.33	地域全体の公共交通延長	推奨	高い		負担小さい	
環境負荷の軽減	No.34	CO2排出量の削減	選択		わかりやすい	
	No.35	自家用車分担率の縮小	選択		わかりやすい	
	No.36	渋滞の削減	選択		わかりやすい	
安全確保	No.37	免許返納者数の拡大	選択		わかりやすい	負担小さい
人口規模の維持	No.38	公共交通の沿線人口	選択		わかりやすい	負担小さい
	No.39	住宅着工件数	選択		わかりやすい	負担小さい
	No.40	地価公示価格	選択		わかりやすい	負担小さい

表 国の手引きの評価指標の例（3）

目標例	数値指標例	区分	交通施策との関連性の高さ	住民目線でのわかりやすさ	計測に伴う調査・分析の負担	
系統間での円滑な接続の確保	No.41	地域間幹線系統に接続している地域内フィーダー系統の便数、接続率【地域内フィーダー系統確保維持事業の活用の際は設定推奨】	推奨	高い	わかりやすい	
	No.42	地域間幹線系統に乗り換える地域内フィーダー系統の利用者数【地域内フィーダー系統確保維持事業の活用の際は設定推奨】	推奨	高い	わかりやすい	
	No.43	地域内フィーダー系統と地域間幹線系統との平均待ち時間【地域内フィーダー系統確保維持事業の活用の際は設定推奨】	推奨	高い	わかりやすい	
	No.44	鉄道・高速バス等との接続便数	選択		わかりやすい	
	No.45	鉄道・高速バス等との平均待ち時間	選択		わかりやすい	
	No.46	鉄道・高速バス等との接続の有無	選択		わかりやすい	
	No.47	接続するフィーダー系統との乗り換え回数	選択		わかりやすい	
	No.48	接続するフィーダー系統との平均待ち時間	選択		わかりやすい	
	No.49	フィーダー系統との接続数	選択		わかりやすい	
	No.50	地域間幹線系統との接続の有無	選択		わかりやすい	